

ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）による 地域の潜在的価値の再認識

著者	菊地 裕幸, 大久保 幸夫
雑誌名	地域総合研究
巻	44
号	1
ページ	61-81
発行年	2016-09-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1654/00000807/

調査報告

ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）による 地域の潜在的価値の再認識

菊地 裕幸*・大久保 幸夫**

I. はじめに

平成27年12月5日（土）、28年1月30日（土）、そして3月18日（金）と3回にわたり、「ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）」が行われた。

本稿は、その取り組みの概要について記したものである。

II. ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）の取り組みについて

1. 「ふるさと水土里の探検隊」とは？

「ふるさと水土里の探検隊」は、平成6年度から鹿児島県で実施している「ふるさと探検隊」のうち、学官共同プロジェクトとして、平成21年度から鹿児島国際大学と連携して行われている取り組みである。「ふるさと探検隊」は、中山間地域等において、地域住民による集落点検やワークショップにより、地域課題の整理や保全活動計画作成等を行い、農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るための、自主的な話し合いを中心とした地域活動を推進するものである。これに対して「ふるさと水土里の探検隊」は、「ふるさと探検隊」に地域外からの意見や、大学が行う地域へのアンケートの分析報告や地域活性化に向けた提案などを通じて、地域資源の発見や活用など、新たな視点を取り入れ、自主的な話し合いを中心とした地域活動を推進しようとするものである。

2. 日置市日吉町八幡・諏訪地区について

平成27年度の「ふるさと水土里の探検隊」は、日置市日吉町八幡・諏訪地区で実施されることとなった。八幡・諏訪地区は、日吉地域の中央を南北に流れる大川と、向江山・大谷山に挟まれた場所に位置しており、山間部からは東シナ海や野間岳を一望できる自然豊かな地域である。人口は884名（平成27年3月末現在）、そのうち37.8%（345名）が65歳以上である一方、20歳未満人口は少なく、少子高齢化が進んでいる。地域の中心部には、五穀豊穡を願って、田んぼの中で泥んこになって飛び跳ねるユニークなお田植え祭り「せっぺとべ」で有名な八幡神社がある。八幡地区では「虚無僧踊り」、諏訪地区では「笹踊り」等の郷土

キーワード：ふるさと水土里探検隊、鹿児島県、中山間地域、集落点検、保全活動

* 本学経済学部教授

** 本研究所所長・本学経済学部教授

芸能が伝承されており、せっぺとべと併せ、小中学生が踊り子となって踊りを披露している。地区には日置島津氏の菩提寺である大乘寺跡や刀立大明神跡・石子塚、安養院弥勒寺跡などの史跡も多く存在し、また大乘寺跡の敷地には、現代の名工にも選ばれた、西郷隆盛の曾孫にあたる西郷隆文氏の日置南洲窯もある。

3. 第1回ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）

第1回目の探検隊は、平成27年12月5日に行われた。総勢約80名が参加、うち本学からは学生10名、教員2名の計12名が参加した。八幡 A・B、諏訪 A・B の4コースに分かれ、それぞれ2時間程度かけて集落点検を行った。

菊地の属した諏訪 A 班は、諏訪神社（南方神社）からスタートし、棚田や田の神さあなど、のどかな景観を楽しみながら弥勒寺跡、大乘寺跡を経由し、日吉運動公園横を通ってゴールの公民館へと至るルートをたどった（写真参照）。



諏訪神社



棚田ののどかな風景



のどかな景色の中を探検隊メンバーが歩く



田の神さあ



安養院弥勒寺跡



大乘寺跡



日置島津家の墓所へと至る階段を上る



西郷隆文氏の日置南洲窯



八幡コースを探検するメンバー



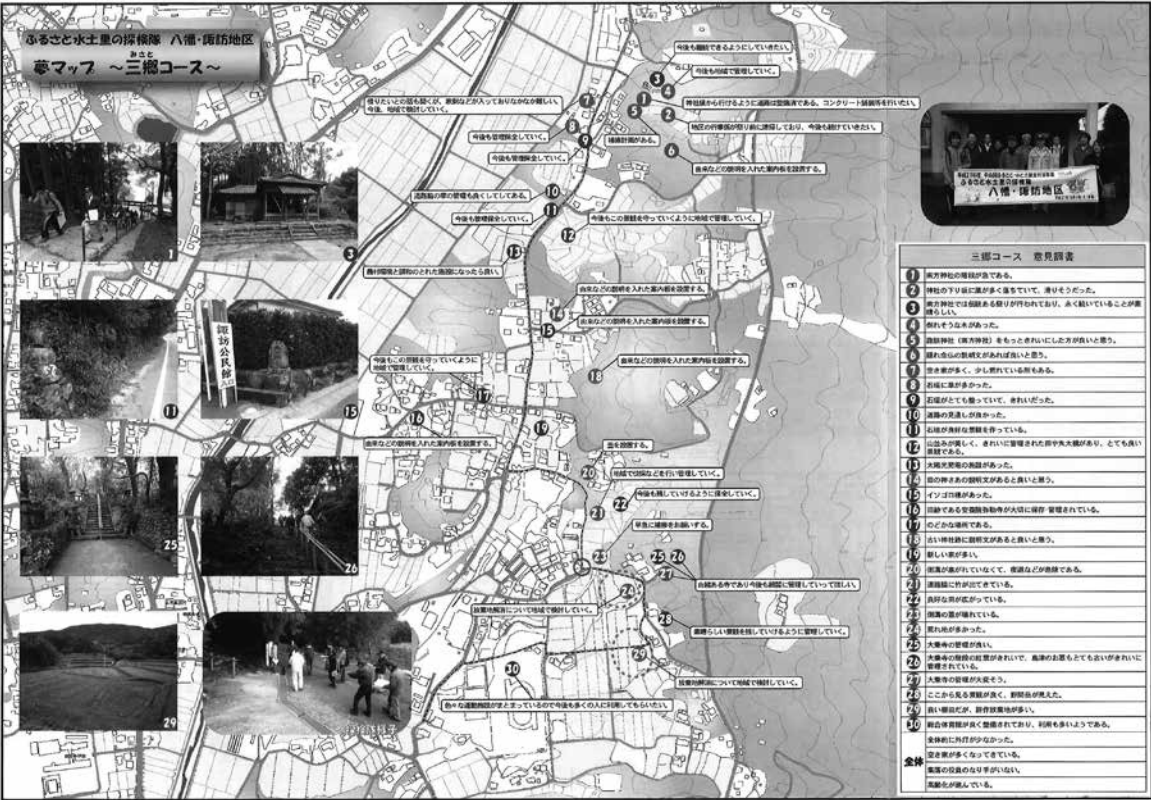
八幡コースのメンバー

その後、公民館で各班に分かれ、コース上の良いところ、課題や問題点などに関する意見を出し合い、集落点検マップを作成した。さらに、各コースを回った印象や特徴などを踏まえ、八幡 A コースは「八幡コース」、B コースは「八幡はばたけ きれいな田園コース」、諏訪 A コースは「三郷コース」、B コースは「諏訪コース」へとコース名を名称変更した。

参考までに、三郷コースを回ったメンバーの意見およびマップを以下に掲載しておく。

〈三郷コースの良いところ・課題や問題点〉

- ①南方神社の階段が急である。
- ②神社の下り坂に葉が多く落ちていて、滑りそうだった。
- ③南方神社では伝統ある祭りが行われており、永く続いていることが素晴らしい。
- ④南方神社に倒れそうな木があった。
- ⑤神社をもっときれいにした方が良いと思う。
- ⑥隠れ念仏の説明文があれば良いと思う。
- ⑦空き家が多く、少し荒れている所もある。
- ⑧石垣に草が多かった。
- ⑨石垣がとても整っていて、きれいだった。
- ⑩道路の見通しが良かった。
- ⑪石垣が良好な景観を作っている。
- ⑫山並みが美しく、きれいに管理された田や丸太橋があり、とても良い景観である。
- ⑬太陽光発電の施設があった。
- ⑭田の神さあの説明文があると良いと思う。
- ⑮イソゴロ様があった。
- ⑯旧跡である安養院弥勒寺が大切に保存・管理されている。
- ⑰のどかな場所である。
- ⑱古い神社跡に説明文があると良いと思う。
- ⑲新しいお家が多い。
- ⑳側溝が塞がれていなくて、夜道などが危険である。
- ㉑道路脇に竹が出てきている。
- ㉒良好な田が広がっている。
- ㉓側溝の蓋が壊れている。
- ㉔荒れ地が多かった。
- ㉕大乘寺の管理が良い。
- ㉖大乘寺の階段の紅葉がきれいで、島津のお墓もとても古いがきれいに管理されている。
- ㉗大乘寺の管理が大変そう。
- ㉘ここから見る景観が素晴らしく、野間岳が見えた。
- ㉙良い棚田だが、耕作放棄地が多い。
- ㉚総合体育館が良く整備されており、利用も多いようである。
- ㉛全体的に、外灯が少なかった。空き家が多くなってきている。集落の役員のなり手がいない。高齢化が進んでいる。



図Ⅱ－１．ふるさと水土里の探検隊 八幡・諏訪地区 夢マップ～三郷コース～

4. 第2回ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）

第2回探検隊は、平成28年1月30日に行われた。総勢約60名が参加、うち本学からは学生9名、教員2名の計11名が参加した。

今回は第1回目で作成した点検マップを再確認しながら第1回目で出された意見を踏まえ、課題を解決するための方法や活動主体、活動時期などについて、前回同様4つのグループに分かれて話し合いを行った。その結果、まとめられたのが、以下の表である。

表Ⅱ ふるさと水土里の探検隊 八幡・諏訪地区 “地域を探検してみたら……だった” さあ これからどうする？

番号	点検場所	良・悪	現 状	夢	夢を実現するために					備考		
			どうなっているの？	どんな風にしたいのか？	活動 主体 誰が	いつ頃まで（活動時期）						
			良いところ・課題や問題点	課題や問題点を解決方法		継続し てやる	すぐ やる	2～3年以内 に実施する （短期）	5～6年以内 に実施する （中期）		10年以上に 実施する （長期）	
1	南方神社	△	南方神社の階段が急である。	神社横から行けるように道路は整備済である。コンクリート舗装等を行いたい。	6		○					
2		△	神社の下り坂に葉が多く落ちていて、滑りそうだった。	地区の行事係が祭りに前に清掃しており、今後も続けていきたい。	5	○						
3		○	南方神社では伝統ある祭りが行われており、永く続いていることが素晴らしい。	今後も継続できるようにしていきたい。	6	○						
4		△	倒れそうな木があった。	今後も地域で管理していく。	6	○						
5		△	諏訪神社（南方神社）をもっときれいにしたい方が良くと思う。	補修計画がある。	6			○				
6	隠れ念仏	△	隠れ念仏の説明文があれば良いと思う。	由来などの説明を入れた案内板を設置する。	8				○			

7	空き屋	△	空き家が多く、少し荒れている所もある。	借りたいとの話も聞くが、家財などが入っておりなかなか難しい。今後、地域で検討していく。	6		○					
8	石垣	△	石垣に草が多かった。	今後も管理保全していく。	1	○						
9		○	石垣がとても整っていて、きれいだった。	今後も管理保全していく。	1	○						
10	道路	○	道路の見通しが良かった。	道路脇の草の管理も良くしてしてある。	5	○						
11	石垣	○	石垣が良好な景観を作っている。	今後も管理保全していく。	1	○						
12	景観	○	山並みが美しく、きれいに管理された田や丸太橋があり、とても良い景観である。	今後もこの景観を守っていくように地域で管理していく。	5	○						
13	太陽発電	○	太陽光発電の施設があった。	農村環境と調和のとれた施設になったら良い。	-							
14	田の神さあ	△	田の神さあの説明文があると良いと思う。	由来などの説明を入れた案内板を設置する。	8				○			
15	イソゴロ様	○	イソゴロ様があった。	由来などの説明を入れた案内板を設置する。	5	○						
16	安養院弥勒寺	○	旧跡である安養院弥勒寺が大切に保存・管理されている。	由来などの説明を入れた案内板を設置する。	8				○			
17	道路	○	のどかな場所である。	今後もこの景観を守っていくように地域で管理していく。	5	○						
18	神社跡	△	古い神社跡に説明文があると良いと思う。	由来などの説明を入れた案内板を設置する。	8				○			
19	集落	○	新しい家が多い。	-	1	○						
20	側溝	△	側溝が塞がれていなくて、夜道などが危険である。	蓋を設置する。	8		○					
21	道路	△	道路脇に竹が出てきている。	地域で伐採などを行い管理していく。	5		○					
22	田	○	良好な田が広がっている。	今後も残していけるように保全していく。	1	○						
23	側溝	△	側溝の蓋が壊れている。	早急に補修をお願いする。	8		○					
24	荒地	△	荒地が多かった。	放棄地解消について地域で検討していく。								
25		○	大乘寺の管理が良い。	由緒ある寺であり今後も綺麗に管理していつてほしい。	1	○						
26	大乘寺	○	大乘寺の階段の紅葉がきれいで、島津のお墓もとても古いがきれいに管理されている。		1	○						
27		△	大乘寺の管理が大変そう。		1	○						
28	景観	○	ここから見る景観が良く、野間岳が見えた。	素晴らしい景観を残していけるように管理していく。	5	○						
29	棚田	△	良い棚田だが、耕作放棄地が多い。	放棄地解消について地域で検討していく。	1	○						
30	総合体育館	○	総合体育館が良く整備されており、利用も多いようである。	色々な運動施設がまとまっているので今後も多くの人に利用してもらいたい。	8	○						
全体	集落	心配事	全体的に外灯が少なかった。	外灯の要望や計画はあるので今後も検討していく。	5	○						
			空き家が多くなってきている。	高齢化による影響（集落機能・役員・郷土芸能・空き家）について地域で話し合いを行い対策を検討していく。	6	○						
			集落の役員のなり手がいない。			○						
			高齢化が進んでいる。			○						

※郷土芸能を年2回行っているが若い人がいないので地域外から応援をもらい開催している状況である。

※空き家について年に何件か問い合わせがあるが家財が残っていたりして難しい。借りたい人は陶芸などをする人が多い。

※小学校も平成30年度には統合される（5校を1校に）

※運動施設と史跡を組み合わせた構想（健康コースなど）を検討したらどうか。

5. 第3回ふるさと水土里の探検隊（八幡・諏訪地区）

第3回探検隊は、平成28年3月18日に行われた。総勢約40名が参加、うち本学からは学生6名、教員2名の計8名が参加した。

最終回の今回は、地域住民に対して本学が行ったアンケート結果を報告（後述）するとともに、八幡・諏訪地区の地域活性化へ向けた今後のあり方について、第1回目、第2回目およびアンケートの結果を踏ま

えて本学学生が発表を行った。その概要は以下の通りである。

〈学生発表の概要〉

集落点検やアンケートの結果から、八幡・諏訪地区の魅力として次のようなことが挙げられる。

- ・静かでのんびりできる、住みやすい。
- ・人が親切。
- ・夕日がきれい、特に山と海が調和した美しい景観は素晴らしい。
- ・せつぺとべ、太鼓踊りなどの祭りや伝統行事が多い。
- ・八幡神社、大乘寺跡、南洲窯など、歴史や文化にまつわるものが多い。
- ・かんきつ類や豆類、イモ類などをはじめとして農業がさかんである。
- ・鹿児島市からもわりと近い立地環境にあり、移り住む人も一定数いて、ベッドタウン的な地域である。
- ・体育館やせつぺとべ館など交流のための施設が整っている。

一方、八幡・諏訪地区の課題としては、次のようなことが挙げられる。

- ・車がないと、買い物、移動などが不便。
- ・少子高齢化や人口減少などで寂しくなっている。
- ・祭りなどの行事の担い手や農業などの後継者が不足してきている。
- ・耕作放棄地や空き家が多い。
- ・運動公園やせつぺとべ館などがあるので、交流人口は比較的多い。

アンケート調査によると、「静かさや穏やかさは維持したい」一方で、少子高齢化、人口減少、行事の継承などを考えると、「若い人を中心に移住者が増えてほしい」また魅力的な地域資源を整備・PRして、「訪問者をもっと増やしたい」と考えている人も多いようだ。そのことを踏まえると、住みやすい快適な環境と、人が増えて活気あるまちとしていくことの両立を図っていくためにはどうすればよいか、ということが課題であるように思われる。まずは、地区内の人々が地区内の人同士あるいは地区外からの訪問者と交流できる場をつくり、八幡・諏訪地区についてもっと知ってもらうことが大事なのではないだろうか。そこで、以下の提案を行う。

提案1—土日限定の物産館を開設する。場所は体育館や駐車場などがよい。そこで地域で作られた米や農作物を販売する。また空き家を整備し、訪れた人に紹介するスペースをつくったり、八幡・諏訪地区の歴史を紹介・展示したり、地域行事のお知らせコーナーを設けたりする。物産館にはお茶スペース（サロン）を作り、地域の人同士やそれ以外の人の交流の場とする。収益の一部で神社の修繕等を行い貴重な地域資源を保存・整備する。

このような物産館を開設することで、人々が楽しく交流できる場を地域に作ることができる。また地域の農産物等が少しでも売れ、お金が地域の中に入ってきて循環する一つの仕組み作りにもつながる。歴史や行事をお知らせする場を作ることでPRや地域の誇りの醸成にもつながるだろうし、空き家の紹介を行うことで、空き家の有効活用にも資する。これらが物産館を開設する意義である。

提案2—祭りや行事のさらなる活性化を図る。子どもなどの担い手が少なくなっていることもあるので、たとえばせつぺとべの特別枠を作り、地区外の子供達もチームを作ってせつぺとべに参加してもらう。それによってせつぺとべのことをさらに知ってもらい、次世代に受け継いでいってもらえるのではないだろうか。またせつぺとべなどの行事に合わせてスポーツ大会などを開催したり、特産品販売や花火大会、農業体験、手打ちそば作り体験などと組み合わせて、多くの人に行事を知ってもらうことが大事ではないかと考える。事前にマスコミを活用して効果的なPRを行うことも重要であろう。

祭りや行事を活性化していく上で考えなければならないのは、役員や担い手の負担をどうするかということである。行事の実施に際しては、役員の負担が重く、担い手も少ないのが現状である。そのことにつ

いては、たとえば、地域の活性化と伝統行事の継承は大事なことであるから、市役所職員の方に応援に来てもらうとか、応援ボランティアを募集して大学など地区外への呼びかけを積極的に行っていくのがよいのではないかと考える。よさこい踊りなど、若者向けの新しい（今風の）踊りなどがあってもよいかもしれない。

提案3—企業の新入社員研修を誘致する。新入社員研修をせつべとべ館等で行うことを企業に打診し、研修の一環として、地域の魅力発見・創造のために、市や住民の方々と議論などをしながら、一つのものを作り上げていく。まちにとってのメリットとしては、人が来ることによって地域にお金落ち、また「よそのもの・若者・ばかもの」の発想で地域に新しい風を吹かせることができる。さらには研修をした人達が八幡・諏訪地区に愛着を持つようになり、その後も継続的に地域と交流を深めることができるかもしれない。企業にとっても、会社を離れて地域で研修を行うことによって、社員の団結力や実践力が高まるであろうし、現に一部の企業ではそのようなことが行われている。またこれからの企業にとっては、企業が生き残るため地域と連携・協働していくことが不可欠であり、その意味でもこの取り組みによって地域との関係性を深めていくのは意義のあることなのではないであろうか。

最後に、今まで日吉町八幡・諏訪地区のことはほとんど知らなかったが、貴重な伝統行事や歴史・文化遺産、のどかな自然・景観など、たくさんの魅力的な資源があることがわかった。このような貴重な機会を与えてくださった地域の皆様や鹿児島県庁の皆様に心よりお礼を申し上げたい。



図Ⅱ－2. 学生発表の概要

Ⅲ. アンケート結果

「ふるさと水土里の探検隊」の活動の一環として、2015（平成27）年12月、鹿児島県日置市日吉町八幡・諏訪地区において住民の地域に対する意識調査のため「地域イメージアンケート」を実施した。アンケートは、平成26年度まで「ふるさと水土里の探検隊」（[1]）を担当した富澤拓志氏が作成したものを使用した。

分析には、富澤（[2]，[3]）と同じSD（Semantic Differential）法を用いた。アンケートは、対極的な意味を持つ形容詞を両端に配置した問いに対し7段階の評価尺度「3，2，1，0，1，2，3」を用意し、感じる度合いに対応する数字に○をつけてもらうもので、集計の段階で、分析し易くするために評価尺度を「-3，-2，-1，0，1，2，3」と変換した。

1. 回答者の個人属性

回答者は155名、そのうち男67名、女84名、不明は4名、平成27年3月31日現在の八幡・諏訪地域の人口は884名（男430名、女454名）、65歳以上の占める割合が37.8%（345名）である。したがって、本アンケートには地域住民の約18%が回答したことになる。

回答者の年齢構成は、60代35.5%、70歳以上25%と60歳以上が60%を占め、地域の高齢化が進んでいることがわかる（表Ⅲ-1）。

表Ⅲ-1 回答者の年齢分布

年齢(歳)	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	合計
度数	2	5	5	11	12	25	54	38	152
有効%	1.3	3.3	3.3	7.2	7.9	16.4	35.5	25	100

年齢と職業のクロス集計によると、農業従事者は全体の約10%ほとんどが60代・70代以上である（表Ⅲ-2）。無職（35%）のうち90%が60代・70代以上で、年金生活者が多いと思われる。

表Ⅲ-2 年齢と職業のクロス集計

	年齢	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	合計
農業	度数	0	0	0	0	0	1	7	7	15
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	46.7%	46.7%	100.0%
会社員・公務員	度数	0	0	3	5	8	12	9	0	37
	%	0.0%	0.0%	8.1%	13.5%	21.6%	32.4%	24.3%	0.0%	100.0%
自営業	度数	0	0	0	1	0	3	2	1	7
	%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	42.9%	28.6%	14.3%	100.0%
主婦（パート）	度数	0	0	0	4	2	6	16	0	28
	%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	21.4%	57.1%	0.0%	100.0%
学生・生徒	度数	2	5	0	0	0	0	0	0	7
	%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	100.0%
無職	度数	0	0	2	0	1	2	19	29	53
	%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	1.9%	3.8%	35.8%	54.7%	100.0%
その他	度数	0	0	0	1	1	1	1	1	5
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	100.0%

「家で農業をしているか」の問については、44.7%の家庭が何らかの形で農業を行っていると考えている。「家で農業」と「職業」のクロス集計によると、会社員・公務員のうち23.9%、無職者のうち29.9%が家で農業をしていることがわかる（表Ⅲ-3）。なお、生産している作物は米と野菜、野菜は自家で食べる程度という回答が多かった。

表Ⅲ－3 「家で農業」と「職業」のクロス集計

			農業	会社員 公務員	自営業	主婦 パート	学生 生徒	無職	その他	合計
家で農業	している	度数	13	16	4	10	2	20	2	67
		%	19.4%	23.9%	6.0%	14.9%	3.0%	29.9%	3.0%	100.0%
	していない	度数	2	20	3	18	4	30	2	79
		%	2.5%	25.3%	3.8%	22.8%	5.1%	38.0%	2.5%	100.0%
	わからない	度数	0	1	0	0	1	1	1	4
		%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%

回答者が住んでいる地域については、八幡74名（47.7%）、諏訪72名（46.5%）、無回答9名（5.8%）であった。

回答者の地域での居住期間は、（表Ⅲ－4）のとおりである。30年以上が60%を占める。

表Ⅲ－4 回答者の居住期間

年数	0～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40～49年	50～59年	60～69年	70～79年	80年～	無回答
人数	18	21	14	24	26	19	15	4	5	9
%	11.6	13.5	9	15.5	16.8	12.3	9.7	2.6	3.2	5.8

回答者の生活タイプ（好み）について聞いた（ここでも－3、－2、－1、0、1、2、3の評価尺度を用いた）結果が（表Ⅲ－5）である。社交的・外向的で、この地に住み続けたいと思う人が比較的多いことがわかる。

表Ⅲ－5 回答者のタイプ

	度数	平均値	標準偏差
一人が好き⇔ 人と一緒に好き	147	0.27	1.867
休みは家で過ごしたい⇔ 外に出かける方が好き	146	0.18	1.722
この地から離れたい⇔ 住み続けたい	147	1.08	1.796

（表Ⅲ－5）の「この地から離れたい⇔住み続けたい」に対する詳しい回答が（表Ⅲ－6）である。強く住み続けたいと思う人が32.7%、58.5%がこの地に住み続けたいと思っている。

表Ⅲ－6 「この地から離れたいー住み続けたい」についての回答

	度数	有効パーセント
離れたい (-3)	4	2.7
離れたい (-2)	15	10.2
離れたい (-1)	5	3.4
どちらでもない (0)	37	25.2
住み続けたい (1)	14	9.5
住み続けたい (2)	24	16.3
住み続けたい (3)	48	32.7
合計	147	100.0

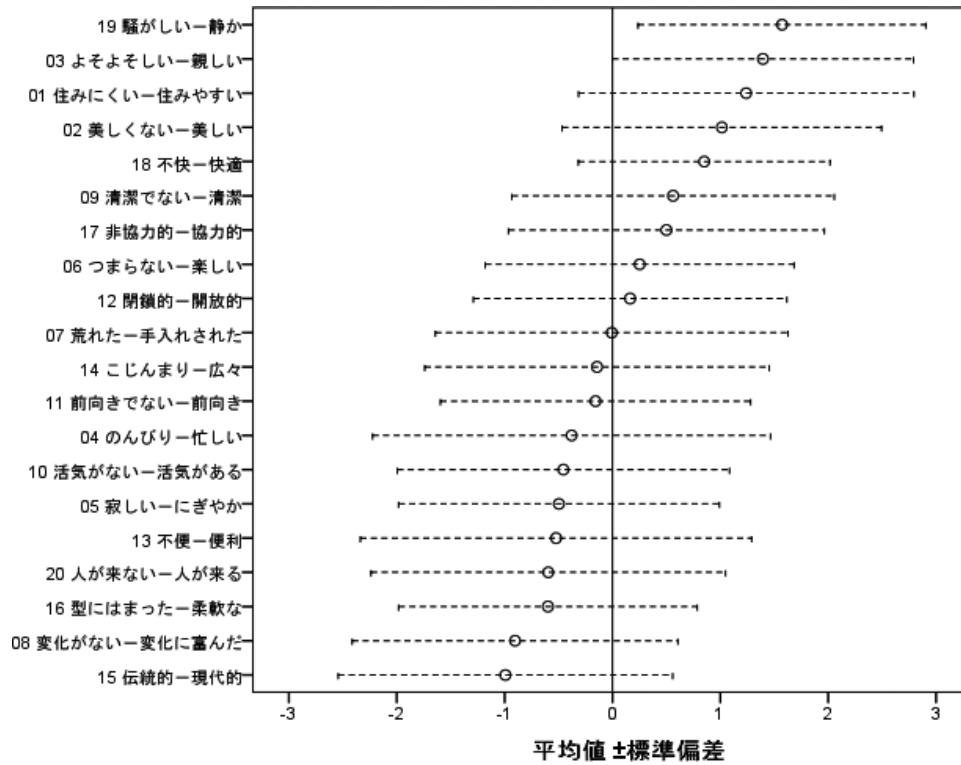
表Ⅲ－７ 「年齢」と「この地から離れたい－住み続けたい」のクロス表

	離れたい (-3)	離れたい (-2)	離れたい (-1)	どちらでも ない (0)	住み続けた い (1)	住み続けた い (2)	住み続けた い (3)
0～9歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%
10～19歳	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	0.7%	0.7%	0.0%	0.7%	1.4%	0.0%	0.0%
30～39歳	0.0%	1.4%	0.7%	2.0%	0.0%	2.7%	0.7%
40～49歳	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.4%	2.7%	2.0%
50～59歳	0.7%	2.7%	0.7%	4.8%	2.0%	3.4%	2.7%
60～69歳	1.4%	3.4%	2.0%	6.8%	2.7%	4.8%	13.6%
70歳以上	0.0%	2.0%	0.0%	4.8%	2.0%	2.7%	12.9%

（表Ⅲ－7）から、「この地に住み続けたい」思いが最も強い年代は60歳代である（21.1%）一方、「この地から離れたい」思いが一番強いのも60歳代（6.8%）であることが分かる。

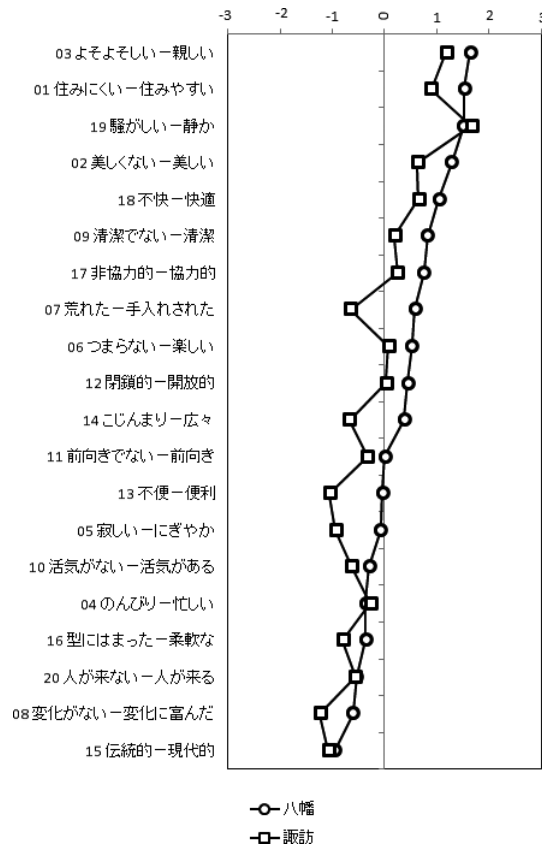
2. 地域イメージのSD プロファイル

この地域に対してのイメージを探るために、対極的な意味を持つ形容詞を両端に配置した20項目について、それぞれ7段階評点（3, 2, 1, 0, 1, 2, 3）から当てはまる番号を選んでもらった。統計処理上の理由から7段階評点を（-3, -2, -1, 0, 1, 2, 3）に変換し、平均値と標準偏差を求め、平均点の高い順に並べた（図Ⅲ－1）。これより、地域全体（八幡・諏訪）について評価が上位にある5尺度は、「騒がしい－静か」、「よそよそしい－親しい」、「住みにくい－住みやすい」、「美しくない－美しい」、「不快－快適」、いずれも平均値がプラスで、中央より右側の語句を選んだ人が多いことが分かる。逆に、評価が下位にある5尺度は、「不便－便利」、「人が来ない－人が来る」、「型にはまった－柔軟な」、「変化がない－変化に富んだ」、「伝統的－現代的」、いずれも平均値がマイナスで、中央より左側の語句を選んだ人が多いことが分かる。全体をとおして両地区は、「静かで、親しみがあがり、美しく、快適ではあるが、少々不便で、あまり人が来なく、変化の少ない伝統を重んじる地域」であると言えよう。



図Ⅲ－1 全体（八幡・諏訪）のSD プロファイル

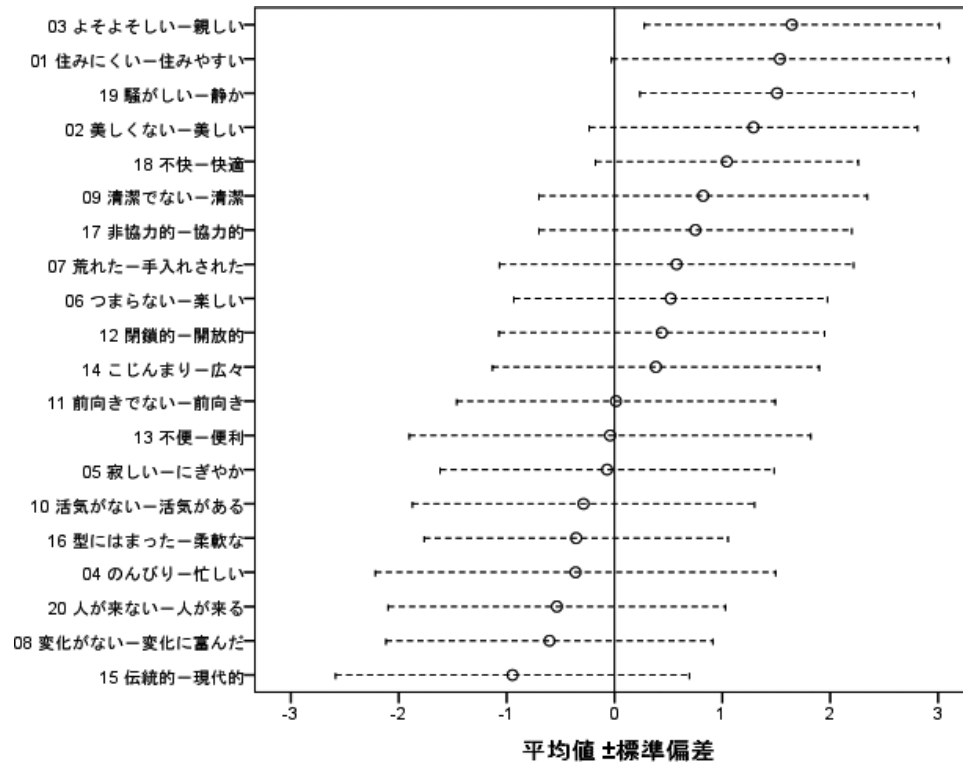
SD プロファイルに男女による大きな違いは認められなかったが、地区による違いがあることが分かった。（図Ⅲ－2）によると、「騒がしいー静か」、「のんびりー忙しい」の2尺度を除いて、八幡地区の平均点が高い。また、平均点の差が0.8以上ある尺度は、「荒れたー手入れされた」、「こじんまりー広々」、「不便ー便利」、「寂しいーにぎやか」であり、地域に対する意識に差がみられた。



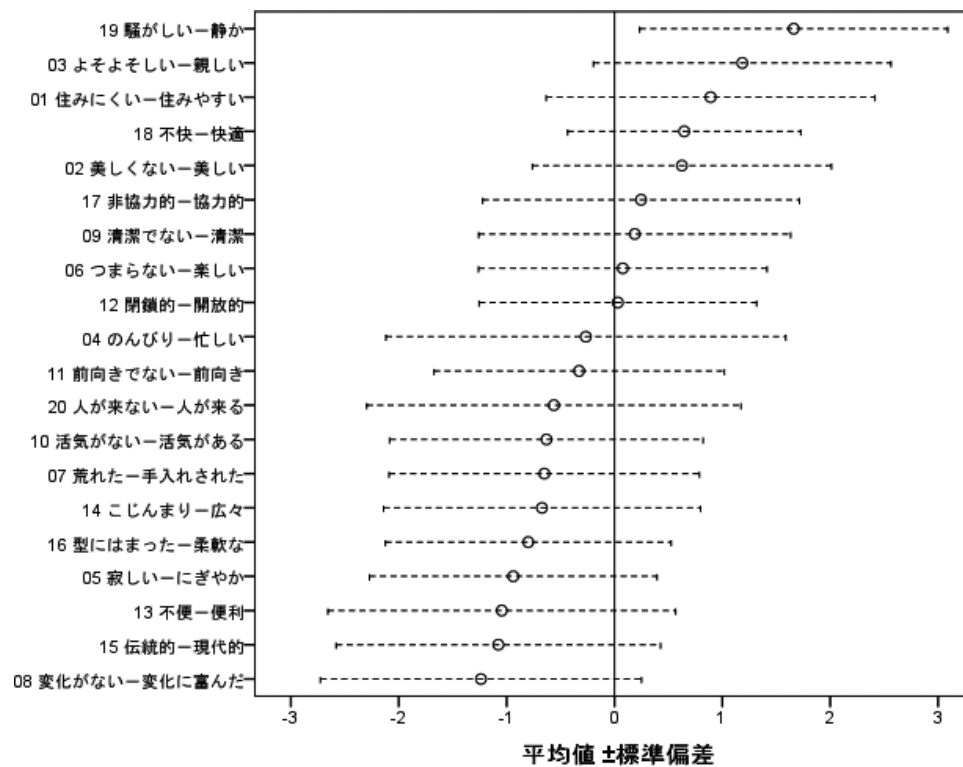
図Ⅲ－２ 八幡・諏訪地区のSD プロファイル

そのため、両地区別にSD プロファイルを作り比較することにした。八幡地区プロファイル（図Ⅲ－３）と諏訪地区プロファイル（図Ⅲ－４）によると、両地区で評価が上位にある5尺度は、「よそよそしいー親しい」、「住みにくいー住みやすい」、「騒がしいー静か」、「美しくないー美しい」、「不快ー快適」、順位は違う項目もあるが、全体としては共通している。評価が下位にある5尺度は、八幡地域が「型にはまったー柔軟な」、「のんびりー忙しい」、「人が来ないー人が来る」、「変化がないー変化に富んだ」、「伝統的ー現代的」であるのに対し、諏訪地域が「型にはまったー柔軟な」、「寂しいーにぎやか」、「不便ー便利」、「伝統的ー現代的」、「変化がないー変化に富んだ」である。諏訪地区の方が、八幡地区と比較して「寂しい」、「不便」と感じる人がやや多い。また、平均値が0以上の項目が、八幡地区は12項目あるのに対し、諏訪地区は9項目であった。ただし、プラスの評価が、マイナス評価と比較して「良い」または「優れている」ということではない。例えば、「こじんまり」している方が「広々」しているより好きな人もいれば、祭りなどの伝統行事が多い地域であれば、「現代的」より「伝統的」と答える方が自然である。実際、この地域は、「せつぺとべ」、「田植踊り」、「太鼓踊り」などの祭りが盛んで、八幡神社や諏訪神社などの歴史的建造物も多い。

SD プロファイルでは、平均値±標準偏差を点線で表した。点線の幅の大きさは回答者の感じ方のばらつきを意味する。標準偏差が大きい尺度が、八幡地区では「不便ー便利」と「のんびりー忙しい」、諏訪地区では「のんびりー忙しい」と「人が来ないー人が来る」である。これらの回答のばらつきの原因は、回答者の住んでいる場所、回答者の置かれている状況によると考えられる。



図Ⅲ－3 八幡地区のSD プロファイル



図Ⅲ－4 諏訪地区のSD プルファイル

3. 地域イメージの因子分析

SD 法で得られたデータの背後にある共通因子を探るために因子分析を行った。

①地域全域（八幡・諏訪地区）の因子分析

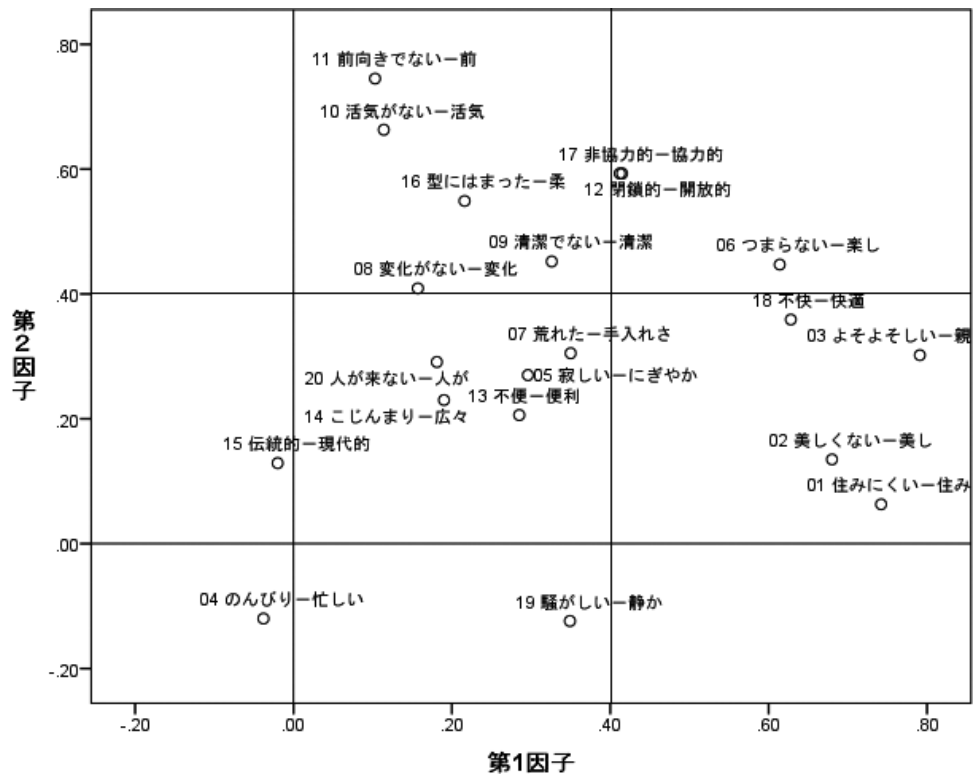
八幡・諏訪地区の地域イメージのSD プロファイルに対して因子分析を行った。固有値が1以上という条件とスクリープロット法により4因子構造が妥当であると考え、因子分析（主因子法、バリマックス回転）を行い、（表Ⅲ-8）にある因子負荷量を得た。第1因子を、負荷量の高い項目「よそよそしい－親しい」（0.791）、「住みにくい－住みやすい」（0.742）などから、「親近感と居住性」と名付けた。第2因子は、「前向きでない－前向き」（0.745）、「活気がない－活気がある」（0.663）などから「活力」と名付けた。同様にして、第3因子を「利便性」、第4因子を「にぎわい」とした。

表Ⅲ－8 全地域（八幡・諏訪地区）の地域イメージに関する因子分析結果

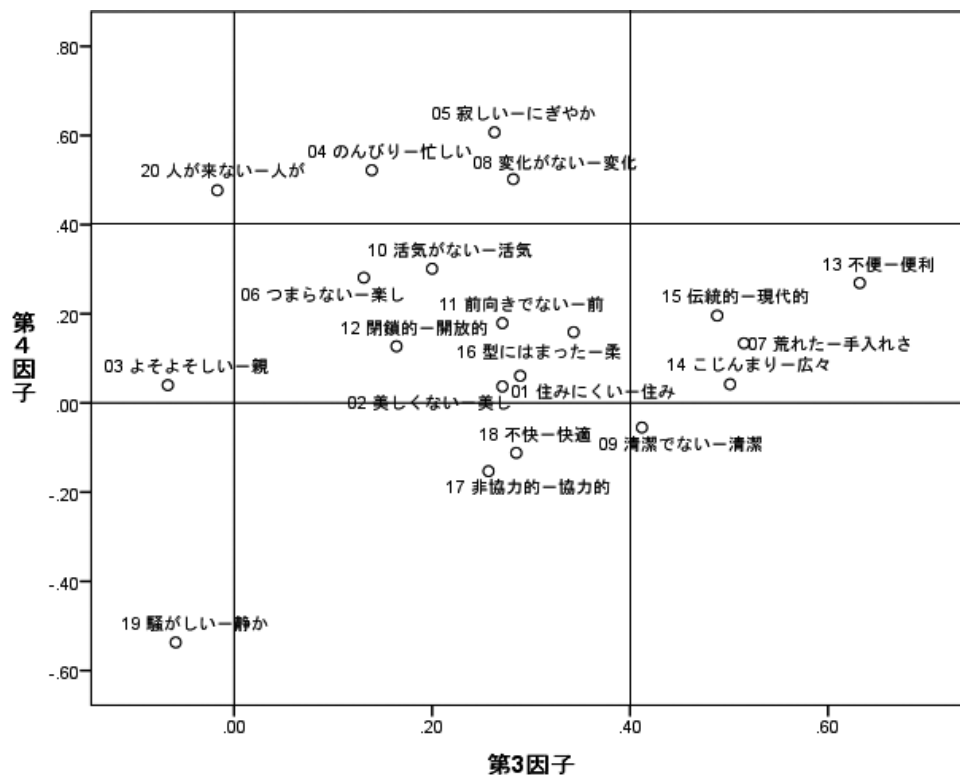
	第1因子 (親近感と 居住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)	共通性
03 よそよそしい－親しい	0.791	0.302	－0.067	0.040	0.723
01 住みにくい－住みやすい	0.742	0.063	0.289	0.061	0.642
02 美しくない－美しい	0.680	0.135	0.271	0.037	0.555
19 不快－快適	0.628	0.359	0.285	－0.112	0.617
06 つまらない－楽しい	0.614	0.447	0.131	0.281	0.673
11 前向きでない－前向き	0.103	0.745	0.271	0.179	0.671
10 活気がない－活気がある	0.114	0.663	0.200	0.301	0.583
18 非協力的－協力的	0.415	0.593	0.257	－0.153	0.613
13 閉鎖的－開放的	0.412	0.593	0.164	0.127	0.564
17 型にはまった－柔軟な	0.216	0.549	0.343	0.159	0.491
09 清潔でない－清潔	0.326	0.452	0.412	－0.055	0.483
14 不便－便利	0.285	0.206	0.632	0.269	0.595
07 荒れた－手入れされた	0.350	0.305	0.515	0.134	0.499
15 こじんまり－広々	0.190	0.230	0.501	0.042	0.342
16 伝統的－現代的	－0.020	0.129	0.488	0.196	0.294
05 寂しい－にぎやか	0.296	0.270	0.263	0.607	0.598
20 騒がしい－静か	0.349	－0.124	－0.059	－0.537	0.429
04 のんびり－忙しい	－0.038	－0.120	0.139	0.522	0.308
08 変化がない－変化に富んだ	0.157	0.409	0.282	0.502	0.523
21 人が来ない－人が来る	0.181	0.291	－0.017	0.477	0.345
因子寄与	3.437	3.205	2.078	1.828	

KMO の測度 =0.853, Barlett 検定: $p=0.000<0.05$

因子抽出法: 主因子法。回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法。因子負荷0.40以上に網掛けをした。



図Ⅲ－5 全地域（八幡・諏訪地区）の因子負荷量の分布（第1因子，第2因子）



図Ⅲ－6 全地域（八幡・諏訪地区）の因子負荷量の分布（第3因子，第4因子）

因子分析で得られた因子得点の平均値を基本属性別に比較する（表Ⅲ－9～13）。男女別因子得点の平均値（表Ⅲ－9）から男性は地域のイメージとして「利便性」があり「にぎわい」があるとみる人が、女性は「親近感と居住性」「活力」を感じる人が多いことがわかる。年齢別因子得点の平均値（表Ⅲ－10）

から次のようなことがわかる。親近感と居住性が高いと感じる年代は40代、低いと感じる年代は20代である。また、活力があると感じる年代は20代、ないと感じる年代は40代である。利便性が高いと感じる年代は70代以上、低いと感じる年代は10代である。にぎわいがあると感じる年代は70代以上、ないと感じる年代は30代である。ここで、10歳未満はサンプル数が極端に少ないので無視した。

表Ⅲ－9 全地域の男女別因子得点の平均値

性別	第1因子 (親近感と共住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
男	-0.0277733	-0.0274696	0.0144392	0.0444342
女	0.0443874	0.0288675	-0.0340690	-0.0349820

表Ⅲ－10 全地域の年齢別因子得点の平均値

年齢	第1因子 (親近感と共住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
0～9歳	1.2116137	1.4056217	0.2486747	-0.8545239
10～19歳	-0.0066785	-0.2959263	-0.6282441	-0.1021790
20～29歳	-0.5255566	0.4678471	0.0126773	0.1746274
30～39歳	-0.0848475	-0.1623426	-0.2282807	-0.4018219
40～49歳	0.1876222	-0.2475631	-0.0620855	-0.0138345
50～59歳	-0.2121389	-0.0508121	-0.0177970	-0.1888971
60～69歳	0.0595933	-0.0057216	0.0264487	0.0715147
70歳以上	0.0048757	0.0968723	0.1514141	0.3065280

表Ⅲ－11 全地域の地区別因子得点の平均値

住んでいる 地区	第1因子 (親近感と共住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
八幡	0.1989395	0.0894033	0.2072216	0.0915419
諏訪	-0.2228503	-0.0633411	-0.2975276	-0.0673644

地区別因子得点の平均値（表Ⅲ－11）から、八幡地区はすべての因子得点平均値がプラスなのに対して、諏訪地区はすべての平均値がマイナスであることがわかる。八幡地区では利便性を感じる平均値が最も高く（0.207）、逆に諏訪地区では利便性を感じる平均値が最も低い（-0.297）。

表Ⅲ－12 全地域の職業別因子得点の平均値

職業	第1因子 (親近感と共住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
農業	0.2492259	0.2757328	0.3215328	0.1837942
会社員・公務員	-0.1011318	-0.1465730	-0.0746896	-0.2283115
自営業	0.2460620	-0.5275450	0.1104477	0.2364081
主婦（パート）	0.1215242	0.1101294	-0.1511856	-0.1565019
学生・生徒	0.3414050	0.1902303	-0.3776959	-0.3171347
無職	-0.1752694	0.0276760	-0.0006483	0.3670454
その他	-0.1058076	-0.0643047	0.6834116	-0.5565602

職業別因子得点の平均値（表Ⅲ－12）から、第1因子から第4因子まですべてにおいて平均値がプラスの職業は農業で、逆に、すべてマイナスの職業は会社員・公務員であることがわかる。

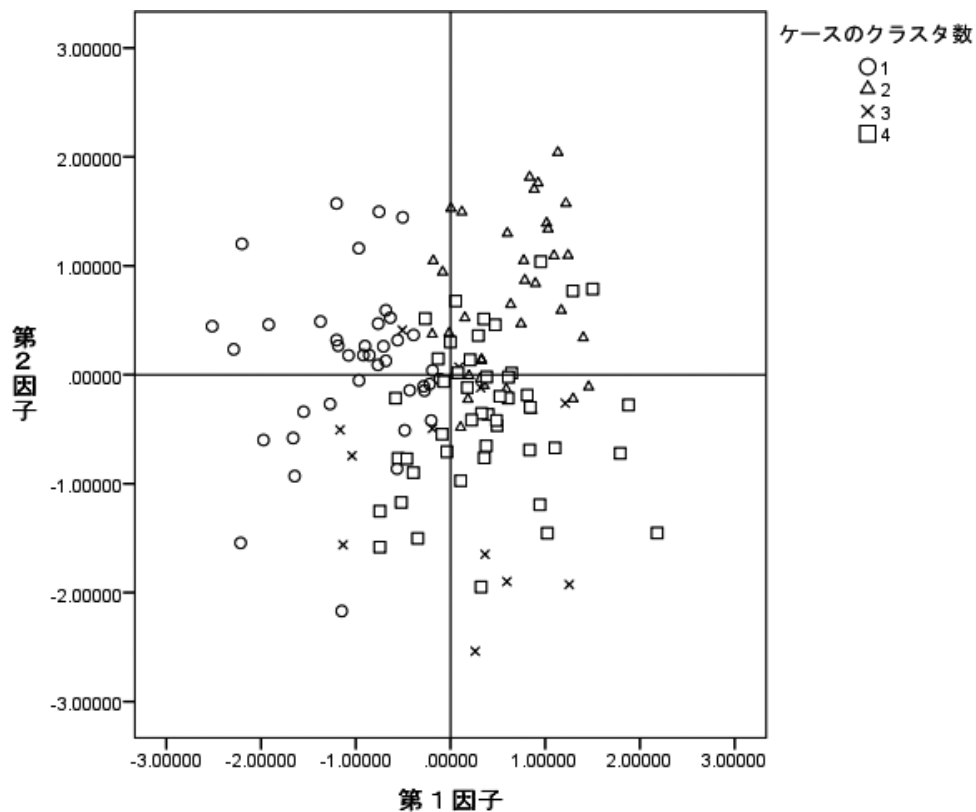
居住期間別因子得点の平均値（表Ⅲ－13）から、親近感居住性が高いのは居住期間60年台、低いのは80年以上、活力が高いのは居住期間70年台、低いのは10年台、利便性が高いのは居住期間40年台、低いのは10年台、にぎわいが高いのは居住期間80年以上、低いのは20年台である。全体的に見た因子得点は、居住期間60年以上が高く、10年台・20年台が低い、一方、居住期間が9年以下と短い人たちの得点は比較的高いことがわかる。

表Ⅲ－13 全地域の居住期間別因子得点の平均値

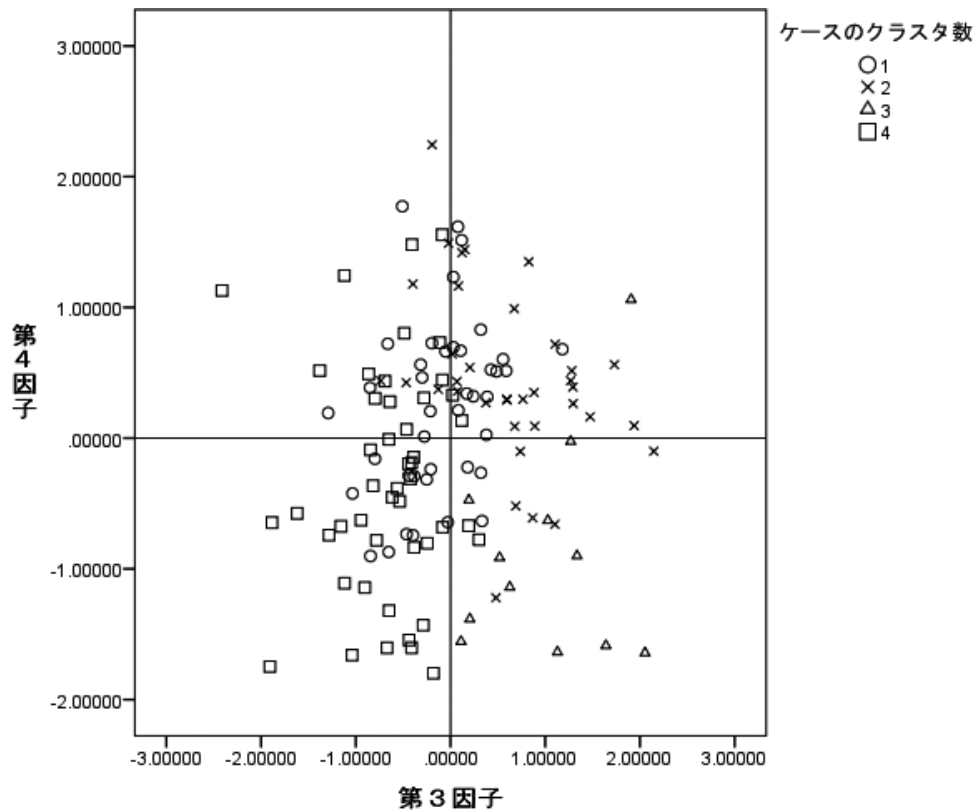
居住期間	第1因子 (親近感と共住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
0～9年	0.0542737	0.2349477	0.2110080	-0.0369347
10～19年	-0.1943912	-0.3575063	-0.4887285	-0.0707368
20～29年	-0.1815080	-0.2296819	0.1277413	-0.4771026
30～39年	0.1448651	-0.3000845	-0.1218142	0.0043378
40～49年	-0.1457990	0.0016996	0.2836097	0.2022297
50～59年	0.1598453	0.2237270	0.0247385	-0.0599104
60～69年	0.3257015	0.4249741	-0.0602420	0.0911159
70～79年	-0.0196777	1.0247222	-0.2973633	0.9104296
80年～	-0.4711226	-0.2908888	0.2457417	0.1757027

4. 地域イメージのクラスタ分析

上記因子分析で得られた因子得点をクラスタ分析により4つのクラスに分解する（(図Ⅲ－7)と(図Ⅲ－8)を参照）。



図Ⅲ－7 八幡・諏訪地区の地域イメージに関する因子得点の分布（第1因子，第2因子）



図Ⅲ－8 八幡・諏訪地区の地域イメージに関する因子得点の分布（第3因子，第4因子）

表Ⅲ－14 全地域（八幡・諏訪・その他）のクラスター別因子得点の平均値

	第1因子 (親近感と居住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
第1クラスター (40人)	-1.0070774	0.0968679	-0.1042203	0.2394560
第2クラスター (37人)	0.6090622	0.6744729	0.6227270	0.4435138
第3クラスター (12人)	0.0041666	-0.9344309	1.0010738	-0.9023912
第4クラスター (47人)	0.3765488	-0.3748307	-0.6571270	-0.3225437

クラスター別因子得点の平均値（表Ⅲ－14）から，第1クラスターは「親近感と居住性」への評価は低いが，「活力」や「にぎわい」への評価が高いグループ，第2クラスターはすべての因子で平均して評価が高いグループ，第3クラスターは「利便性」への評価はかなり高いが，「親近感と居住性」は普通で，「活力」や「にぎわい」への評価が低いグループ，第4クラスターは「親近感と居住性」はある程度評価しつつも他の因子の評価が低いグループと考えることができる。

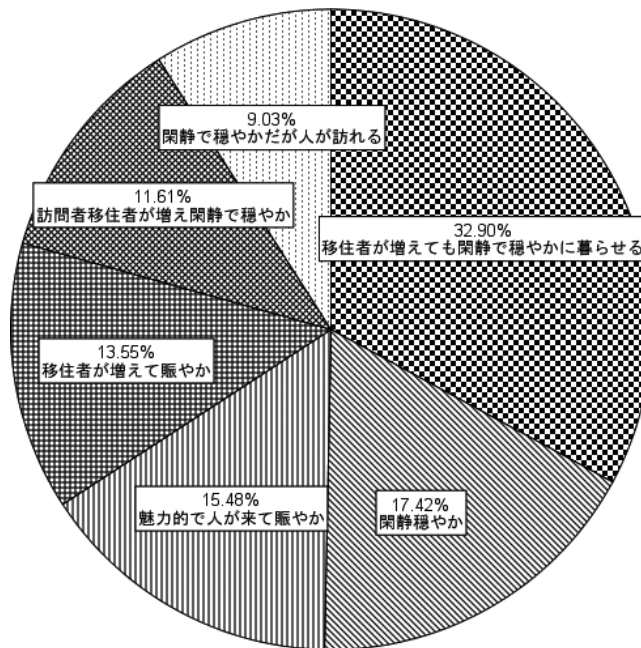
八幡地区（表Ⅲ－15）と諏訪地区（表Ⅲ－16）を比較して，クラスター分類に関して言えることは，第2クラスターの割合が八幡地区では約39%，諏訪地区では約11%と開きがあることである。

表Ⅲ－15 八幡地区のクラスター別因子得点の平均値

	第1因子 (親近感と居住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
第1クラスター (17人)	-0.9903013	0.0119925	-0.0967938	0.0865576
第2クラスター (28人)	0.6998016	0.6034160	0.7297356	0.5189302
第3クラスター (6人)	0.1951696	-0.9675517	1.2745686	-0.7429287
第4クラスター (20人)	0.5097182	-0.2473288	-0.5860891	-0.2522239

表Ⅲ－16 諏訪地区のクラスター別因子得点の平均値

	第1因子 (親近感と居住性)	第2因子 (活力)	第3因子 (利便性)	第4因子 (にぎわい)
第1クラスター (22人)	-0.9760549	0.1941081	-0.1200363	0.2996729
第2クラスター (6人)	0.3450049	0.9858012	0.1954163	0.3989672
第3クラスター (4人)	-0.1371834	-0.7509528	0.5525135	-1.0262747
第4クラスター (24人)	0.3113456	-0.4470197	-0.7251375	-0.3605798



図Ⅲ－9 この地域はこれからどうあって欲しいか

「この地域はこれからどうあってほしいか」の問に対して32.9%の人が、移住者が増えても閑静で穏やかに暮らせる地域であってほしいと思っている（図Ⅲ－9）。

Ⅳ. おわりに

打ち合わせや事前視察なども含めると、約半年間に渡ってふるさと水土里の探検隊そして日吉町八幡・諏訪地区と関わる機会を持った。

八幡・諏訪地区は、雄大な東シナ海を望むことのできる抜群の自然景観を有しており、八幡神社や諏訪神社、大乘寺跡、弥勒寺跡などの史跡やせつべとべ、太鼓踊りなどの伝統芸能さらには南洲窯など、自然、歴史、伝統芸能、文化のあらゆる面で魅力に溢れた地域であり、地域資源全体としての潜在的価値はかなり高いように感じた。しかも近隣には、小松帯刀墓所の園林寺跡やしんこ団子発祥の地である深固院跡などの名跡もいたるところに存在しており、それらを有機的に関連させることによって極めて魅力的な観光と癒やしのエリアとなる可能性を秘めているように思われる。今回のふるさと水土里の探検隊を通じて、鹿児島県には潜在的魅力に溢れた知られざる地域がまだまだたくさんあるということを改めて実感することができた。

学生の発表にもあったように、この地域が様々な課題を抱えているのは事実である。しかし、地域の皆さんが将来の地域のあるべき姿を思い描き、また今の地域の良さを失わせることなしに、これからの時代に即応した地域づくりを持続的に実践していくことによって、新たな活力を育んでいくことは可能であると確信しているし、今後もお役に立てることがあれば、学生とともどもぜひ積極的に関わっていきたい。

今回、学生達も我々教員も、地域の集落点検および地域の皆さんとの温かい交流により、多くの新鮮な気づきや学びを得ることができた。このような機会を与えていただいた八幡・諏訪両地区の自治会長様をはじめとした住民の皆様、そして鹿児島県農村振興課、日置市農地整備課、鹿児島地域振興局、水土里ネット鹿児島の皆様に心より感謝申し上げたい。また、アンケート調査では、地域イメージアンケートを提供いただいた富澤拓志教授（大阪産業大学経済学部経済学科）に合わせて感謝の意を表したい。

参考文献

1. 富澤拓志（2011）「行政と大学の連携による地域おこし活動－鹿児島県日置市飯牟礼地区の水土里活動」, 地域総合研究, 38(2), 17-41
2. 富澤拓志（2012）「地域イメージの調査：鹿児島県日置市飯牟礼地区での調査を例として」, 地域総合研究, 40(1), 19-34
3. 富澤拓志（2013）「鹿児島県南さつま市金峰町白川地区における地域イメージの調査」, 地域総合研究, 41(1), 1-11

参考資料

1. 水土里ネットかごしま（2016）「平成27年度ふるさと水土里の探検隊 八幡・諏訪地区 探検隊の報告（夢マップ）」（「ふるさと水土里の探検隊」資料）
2. 水土里ネットかごしま（2016）「ふるさと水土里の探検隊 八幡・諏訪地区 “地域を探検してみたら……だった” さあこれからどうする？」（「ふるさと水土里の探検隊」資料）